

教 育 委 員 会 だ よ り

北海道指定文化財指定書交付式が行われました

11月28日(火)に、勝山館跡宮ノ沢右岸出土品が北海道指定有形文化財となりました。

この出土品は、旧笹浪家住宅横から発掘されたもので、和人と関連する銚形代(ほこかたしろ)やアイヌの祭祀(さいし)に使うイクパスイなど計88点のアイヌと和人との共生の歴史がわかるものです。

これらは、和入地となつた上ノ国で1600年頃に実際に使用されていたもので、勝山館が廃絶した後も、館から降りた和人とアイヌが共に生活していたことを今に生きる私たちに教えてくれます。

12月7日(木)には、「北海道文化財指定書交付式」が行われ、藤嶋泰道檜山教育局長から上野敦也教育長に指

定書が渡されました。

藤嶋教育局長からは「上ノ国町では、古くからアイヌと共に生活してきたことがこの出土品から知ることが出来ます。このように貴重なものが北海道の文化財に指定されたことは大変喜ばしいことです」、上野教育

長は、「北海道の歴史では、和人とアイヌ民族の戦いがクローズアップされてしま

いますが、今回指定された出土品は、そういった争いの歴史だけではなく、共存共栄していたことがわかる資料となっております。今後、多くの人にそういった歴史文化を伝えていけるよう活用して参ります」とそれぞれ話されました。

出土品の公開については、旧笹浪家住宅で、令和6年4月下旬からの予定となつ

ております。公開の際は、是非一度ご来場ください。



銚形代(上2本)とイクパスイ(下3本)



指定書を受け取る上野教育長

ヤア～ヤア～ヤアットセ！ 河北小学校で「上ノ国昔踊り」を学習



12月5日(火)に河北小学校の3・4年生(12名)の「総合的な学習の時間」で、上ノ国町に古くから伝わる「上ノ国昔踊り」の体験が行われました。

当日は着付けや踊りの指導として、上ノ国昔踊り保存会(石田恵子会長)から4名が参加しました。



踊りを体験する前に保存会の方がたちが児童一人ひとりの体型を採寸して仕立てた着物を着付けました。

最初、子どもたちは慣れない着物で動きづらそうにしていたましたが、練習を繰り返すうちにリズムに合わせて踊ることができました。

最後は、他の学年や先生方も踊りに加わり、河北小学校全員で輪になって踊りました。

保存会の人たちに学習の感想を話すコーナーでは、4年生の久末瑛人君が「はじめは、動きが難しくて踊ることができなかったけど、何回も練習していくうちにだんだん上手に踊ることができた」と感想を述べていました。

踊りの輪を 広げましょう！

上ノ国昔踊り保存会では、一緒に踊る会員を募集しております。現在の会員は25名ほどですが、伝統文化を楽しく継承する子どもから大人まで参加をお待ちしております。

■連絡先(石田会長)
☎090-9757-3966

文化財の寄贈について

12月14日(木)に湯ノ岱在住の富江様より仏像や仏具、掛軸など合計53点の品を寄贈頂きました。

今回の寄贈は、上ノ国町史の資料調査を行う中で、富江様より今後引き継ぐことが難しいこの品々を教育委員会では保管し、公開・活用してほしいとのお話があったことから実現しました。

仏像の中には、富江様のご先祖が土地を開拓する際に発見したものであるなど湯ノ岱の歴史を語る上で欠かせない品もありました。

今後は、資料としての価値などを調査した上で、展示公開していく予定です。湯ノ岱の歴史をつむぐ貴重な品々を寄贈頂きありがとうございます。

※ご本人からのお申し出により写真やお名前は省略させていただきます。



寄贈頂いた仏像